



四ツ留水門碑文



息抜き穴外部（静岡県側）



伝大庭源之丞の墓所(手前から3つ目)



隧道内の合流地点



隧道出口



深良用水の位置図



深良用水



深良用水の概略

郷土の大部分は富士山や愛鷹山から噴出した火山灰に覆われ、水田は多くありませんでした。

深良村の名主・大庭源之丞は、何とか稲の収穫を高めようと、箱根に満々と水をたたえている芦ノ湖の水を郷土の畑に導くことを夢見て、江戸浅草の商人、友野与右衛門に、工事を依頼しました。与右衛門は新田開発の経験があり甲州流の土木技術にも通じた人物で、源之丞の依頼を引き受けると、工事の準備をし、必要な資金を集めました。

寛文3年(1663)、深良用水開削のための立願状が箱根神社に提出され、3年後の寛文6年(1666)、開発請負手形の提出を小田原藩と幕府から許され、源之丞と与右衛門は開発許可を得ます。

箱根神社に出された立願状には、開削成就の暁には新田のうち200石を神領として奉納する事が誓約されています。

工事は4年の歳月と、莫大な費用、労力を費やし、寛文10年(1670)春、湖尻峠の地下に長さ1.28km

の隧道が完成しました。

翌年には小田原藩により新川が作られ、用水を黄瀬川に通水させることにより、より多くの村々に深良用水の水が行き届くようになりました。

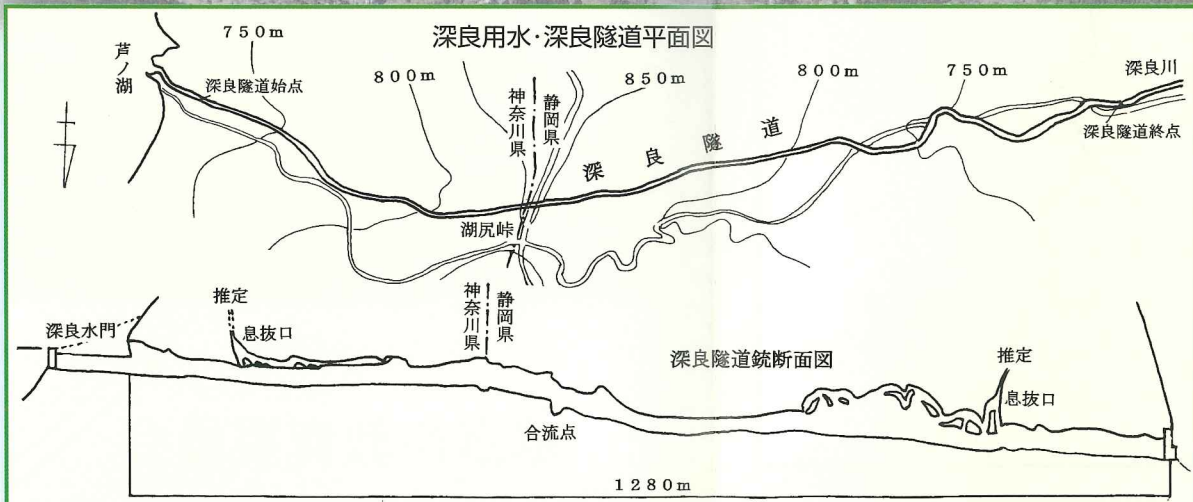
深良用水の完成によって郷土の水田は大幅に増加し、用水の恩恵を受けた面積は、御殿場市の一部、裾野市域、長泉町、清水町に及ぶ5,247km²にわたり、地域の農業は飛躍的に発展しました。

現在でも深良用水は農業用水としてはもちろん、防火用水や水力発電に利用され、地域に必要な社会基盤として活用されています。

裾野市域の村高の変遷

単位:石

村名	正保郷帳(1644年頃)による市域の村高	江戸後期(1800年頃)の村高
深良村	930	1,489
岩波村	76	107
石脇村	109	146
佐野村	299	546
茶畑村	460	690
公文名村	214	313
麦塚村	162	200
平松新田	69	132



深良用水関連略年表

- 1662 深良村名主大庭源之丞友野与右衛門と出合い箱根権現別当の協力を求める。
- 1663 箱根神社に用水建設の立願状を提出
- 1666 友野与右衛門ら元締、小田原藩に深良用水開発請負手形を提出
深良用水隧道工事深良側より始まり、遅れて芦ノ湖より着工
- 1670 深良用水隧道掘抜き(738間)が完成
- 1671 小田原藩 深良用水新川の普請 深良用水完成
- 1672 富沢穴堰完成
- 1774 小田原藩、深良用水隧道の清掃
- 1688 沼津代官小長谷正綱、深良用水の諸施設を改修 深良用水井組を三郷(上・中・下)に分ける
- 1689 御宿名主平次郎と茶畑村名主甚右衛門を水配人に任命
- 1702 深良村大庭源之丞没する
- 1703 元禄の大地震 深良用水隧道・新川土手破損
- 1704 深良用水新川土手決壊、大水害となる
- 1711 「元メ水仁碑」建立される
- 1854 安政南海地震により深良用水決壊する
- 1896 逆川事件おこる
- 1898 逆川事件 大審院判決
- 1910 四ツ留(後の深良水門)改修
- 1922 東京電燈 第1・第2発電所竣工
- 1923 東京電燈 第3発電所竣工
- 1964 深良用水300年祭
- 1988 深良水門改修
- 2006 疎水100選に選ばれる
- 2014 「かんがい施設」遺産に登録